

# 二 ことばの祭儀による結婚式



112

種々の事情からミサによる結婚式を行わない場合は以下の式を用いる。  
助祭も司式することができる。

用意するもの

・ 聖書、聖歌集、会衆用式次第、指輪、聖水、灌水器、  
結婚証書など

## 開祭

113

入堂

入堂の方法は、たとえば次のような二つの形式を参考にして、状況に応じて工夫することが望ましい。

## 第一形式

114 司式者は定刻にふさわしい祭服を着けて奉仕者とともに聖堂の入り口に行つて新郎新婦を迎え、あたたかいことばをかけて、教会が彼らの喜びにあずかることを伝える。

115 続いて祭壇まで行列して進む。奉仕者が先頭に立ち、司式者、新郎新婦が続く。新郎新婦には、地域の習慣に従つて、両親と二人の証人が、用意された席まで付き添うことができる。

行列の間に入祭の歌を歌う。場合によっては、オルガン演奏に代えることもできる。

116 司式者は祭壇に近づき、深く一礼して祭壇に敬意を表した後、席に着く。

## 第二形式

117 司式者は定刻にふさわしい祭服を着けて奉仕者とともに祭壇の前に行き、新郎新婦の入堂を待つ。

118

新郎新婦は祭壇まで進む。この間に入祭の歌を歌う。場合によっては、オルガン演奏に代えることもできる。  
新郎新婦が自分たちの席に来ると、司式者は彼らを迎え、あたたかいことばをかけて、教会が彼らの喜びにあずかることを伝える。

119

司式者は祭壇に近づき、深く一礼して祭壇に敬意を表した後、席に着く。

120

あいさつ

列席者に信者が多い場合、司式者は一同とともに十字架のしるしをした後、たとえば次のようなことばで列席者にあいさつする。

列席者に信者が少ない場合は、すぐに121にあるようなあいさつのことばを述べる。

司 父と子と聖霊のみ名によって。

一同 アーメン。

司 父である神とわたしたちの主イエス・キリストから、  
恵みと平和が皆さんの上にありますように。

一同  
アーメン。

121

続いて挙式の心構えをさせるために、司式者はたとえば次のように一同に語る。

司 皆さん、わたしたちは喜びのうちに今日の日を迎え、○○○○さんと○○○○さんを囲んで、主の家に集まっています。お二人はいま、新しい家庭をつくることを望んでいます。この厳粛な時にあたり、ともに祈りをささげ、今日、神が語られることばをお二人とともに聞きましょう。そして、父である神がお二人を祝福し、いつまでも一つにしてください。教会とともに、わたしたちの主・キリストをとおして願いましやう。(沈黙)

または

司 ○○○○さん、○○○○さん、教会はご親族、ご友人の方々とともに、お二人の喜びにあずかり、心からお祝い申し上げます。今日、わたしたちの父である神の前で、お二人は生涯をともにするきずなを結ばれます。このよき日に、神がお二人の愛を

強め、豊かな恵みを注ぎ、守ってくださいますように。そして神が、お二人の願いをかなえ、祝福で満たしてくださいますように。(沈黙)

122 初めの祈り

司式者は、たとえば次のような祈りを唱える。

司 いくくしみ深い神よ、

わたしたちの祈りに耳を傾け、

○○○○と○○○○の上<sup>うえ</sup>に恵<sup>めぐ</sup>みを豊<sup>ゆた</sup>かに注<sup>そそ</sup>いでください。

あなたの祭壇<sup>さいだん</sup>の前<sup>まえ</sup>で結<sup>むす</sup>ばれる二人<sup>ふたり</sup>が、

互<sup>たが</sup>いの愛<sup>あい</sup>によつて強<sup>つよ</sup>められますように。

わたしたちの主<sup>しゅ</sup>イエス・キリストによつて。

一同 アーメン。

司 全能<sup>ぜんのう</sup>の神<sup>かみ</sup>よ、  
または

結婚の誓いによつて結ばれる二人の上に、

豊かな祝福をお与えください。

二人が愛と信頼に満ちた日々を送り、

多くの人に喜びをもたらすことができますように。

わたしたちの主イエス・キリストによつて。

一同  
アーメン。

## ことばの典礼

123

通常どおりことばの典礼を続ける。

聖書本文は「一 ミサによる結婚式」(42ページ以下)あるいは付録一(137ページ以下)にある朗読箇所から選ぶ。

一つあるいは二つの箇所を朗読することができる。状況から判断してふさわしいと思われるなら、朗読は一つだけでもよい。少なくとも一つの朗読は、つねに結婚に直接ふれるものを選ぶ。以下に朗読の例を一つ示す。

福音の朗読を聞くととき、必ずしも立つ必要はない。



124

答唱詩編は朗読された箇所を詩編のことばによって黙想し、味わうためのものである。一同で歌うことが望ましいが、詩編を朗唱することもできる。事情によっては、オルガン演奏、あるいは沈黙の時間などを設けて、一同が聖書のことばを味わうように配慮する。

アレルヤ唱は歌わない場合は省くことができる。四句節にはアレルヤをひかえ、詠唱を歌う。

125

福音朗読前後の「主は皆さんとともに」や「キリストに賛美」などは、状況に応じて省いてもよい。また、聖書の表題は、わかりやすく変えて読んでもよい。朗読の前に、たとえば次のような簡単な説明を加えることも望ましい。

司

いまから朗読される聖書の中で、神が結婚について何を教えておられるかを聞きましよう。聖書の中から〇〇〇〇の一節を朗読いたします。

126

第一朗読(創世記2・18-24)

創世記

主なる神は言われた。

「人が独りであるのは良くない。彼に合う助けける者を造ろう。」

主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持つて来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、

生き物の名となった。人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかつた。

主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。

「ついに、これこそ

わたしの骨の骨

わたしの肉の肉。

これをこそ、女（イシャ）と呼ぼう

まさに男（イシュ）から取られたものだから。」

こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。

127 答唱詩編（詩編33・18、4、5、6、11）

典礼聖歌46「神の注がれる目は」、47「神の注がれる目は(2)」を歌うことができる。

神の注がれる目は、神をおそれる者に。

128

アレルヤ唱

神の愛に希望をおく者の上に。  
神のことばは正しく、そのわざには偽りが無い。  
神は正義と公平を愛し、いつくしみは地に満ちている。  
天は神のことばによって造られ、星座はそのいぶきによってすえられた。  
神のはからいとはとこしえに、み心の思いは世々におよぶ。

アレルヤ、アレルヤ。  
愛する者は皆、神から生まれ、神を知っている。  
アレルヤ、アレルヤ。

(一ヨハネ4・7b)

129

福音朗読(マルコ10・6-9)

マルコによる福音

「そのとき、イエスは言われた。」「天地創造の初めから、神は人を男と女とお造

りになった。それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」

### 130 説教

朗読の後、司式者は聖書のテーマに基づいて説教し、キリスト教における結婚の秘義、夫婦愛の尊さ、秘跡の恵み、夫婦の務めについて説明する。その際、列席者を考慮に入れ、朗読された聖書の意味が信者でない人にも理解できるように努める。

## 結婚の儀

### 131 新郎新婦と証人が起立する。司式者は新郎新婦に、たとえば次のようなことばを述べる。

新郎新婦が信者の場合

司  
○○○○さん、○○○○さん、お二人はここに集うわたしたちの前で、結婚の意志

結婚の意志の確認

次に司式者は、二人が自らすすんで結婚するのか、相互に忠実を守るつもりであるのか、子どもを授かって育てていく意志があるのかどうかを、たとえば次のようなことばでたずねる。

を聖なるしるしによって固めていただくためにおいでになりました。キリストは二人に豊かな祝福をお与えになり、いつまでも互いに忠実を守り、夫婦としての務めを果たしていくことができるようにしてくださいます。またキリストは、ご自身がすでに洗礼によって聖なる者とされたお二人に、結婚の秘跡によってさらに恵みを与え、強めてくださいます。

新郎新婦のいずれか一方だけが信者の場合

司  
○○○○さん、○○○○さん、お二人はここに集うわたしたちの前で、結婚の意志を聖なるしるしによって固めていただくためにおいでになりました。今日お二人の愛は神の祝福で深められ、いつまでも互いに忠実を守り、夫婦としての務めをすべて果たしていくことができるようになるのです。

第一形式

司 ○○○○さん、○○○○さん、お二人は自らすすんで、この結婚を望んでいますか。

新婦 はい、望んでいます。

司 結婚生活を送るにあたり、互いに愛し合い、尊敬し合う決意をもっていますか。

新婦 はい、もっています。

第二形式

司 ○○○○さん、○○○○さん、お二人はいまからわたしたち一同の前で結婚の誓約をなさるのですが、あなたがたは互いに愛と忠実をもつて、生涯この誓約を守り育てていく決意をもっていますか。

新婦 はい、もっています。



次の質問は、たとえば二人が高齢である場合のように事情によつては省くことができる。

新郎新婦の一方だけが信者の場合

司 あなたがたは恵まれる子どもを、ま  
ことの幸せに導くように育てますか。

新婦 はい、育てます。

新郎新婦が信者の場合

司 お二人の家庭に恵まれる子どもを神  
からの恵みとして心から受け入れ、  
キリストとその教会の教えに従つ  
て育てますか。

新婦 はい、育てます。

133

結婚の誓約

司式者は新郎新婦に結婚の同意を表明するよう勧める。

司 それでは、神とわたしたち一同の前で結婚の誓約をかわしてください。

同意の表明には次の三つの形式があるが、新郎新婦が自分たちのことばで誓約をかわすことができるようにすることが望ましい。またこのとき、二人は右手を取り合うこともできる。

## 第一形式

新郎新婦はそれぞれ次のことばを述べる。

新郎 ○○○○さん、わたしはあなたを妻として迎えます。

喜び、悲しみ、苦しみをともにし、

夫として生涯、あなたを愛し敬うことを誓います。

新婦 ○○○○さん、わたしはあなたを夫として迎えます。

喜び、悲しみ、苦しみをともにし、

妻として生涯、あなたを愛し敬うことを誓います。

## 第二形式

新郎新婦は司式者の質問にそれぞれ答えた後、ともに誓約のことばを述べる。



司 ○○○○さん、あなたは○○○○さんを妻つまとしますか。

新郎 はい、いたします。

司 ○○○○さん、あなたは○○○○さんを夫おとととしますか。

新婦 はい、いたします。

司 それでは一緒にいっしょ、誓ちかいを立たててください。

新郎 新婦 わたしたちは夫婦ふうふとして、

順境じゆんきやうにあつても逆境ぎやうきやうにあつても、病氣びやうきのときも健康けんこうのときも、生涯しやうがい、互たがいに愛あいと忠実ちゆうじつを尽つくすことを誓ちかいます。

### 第三形式

司牧上の理由からふさわしいと思われるなら、司式者は質問の形で二人の同意を確かめることができる。司式者は新郎にたずねる。

司 ○○○○さん、あなたは○○○○さんを妻とすることを望みますか。

新郎 はい、望みます。

司 順境にあつても逆境にあつても、病気の時も健康の時も、

夫として生涯、愛と忠実を尽くすことを誓いますか。

新郎 はい、誓います。

続いて司式者は新婦にたずねる。

司 ○○○○さん、あなたは○○○○さんを夫とすることを望みますか。

新婦 はい、望みます。

司 順境にあつても逆境にあつても、病気の時も健康の時も、

妻として生涯、愛と忠実を尽くすことを誓いますか。

新婦 はい、誓います。

134

結婚成立の宣言

続いて司式者は二人の誓約を確認して次のように言う。( )のことばは状況によって省くことができる。

司

わたしは、お二人の結婚が成立したことを宣言いたします。

お二人がいまわたしたち一同の前でかわされた誓約を神が固めてくださり、祝福で満たしてくださいますように。

(神が結ばれたものを人が分けることはできません。)

または

司

わたしは、お二人の結婚が成立したことを宣言いたします。

お二人が教会の前で表明されたこの同意を、

いのちの与え主である神が、キリストのうちに固め、

祝福してくださいますように。

135

指輪の祝福

指輪の交換は夫婦相互のきずなを示すためのものである。ただし、場合によっては省くことができる。

司式者はたとえば次のような導入のことばを述べた後、次の三つの祈りのうちいずれかを用いて指輪を祝福する。

司 教会は、キリストの名によってこの指輪を祝福します。

司 神よ、この指輪を✠祝福してください。

これ自身をつける者が互いに忠実を守り、  
あなたの平和とみ旨のうちにとどまり、  
つねに互いの愛をはぐくむことができますように。  
わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同 アーメン。

または

司 神よ、

○○○○と○○○○を愛のうちに✠祝福し、清めてください。  
二人の忠実のしるしであるこの指輪が、  
互いの愛をいつも思い起こさせるものとなりますように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同  
アーメン。

または

司  
相互の愛と忠実のしるしとして互いに与え合うこの指輪を、

神が✠祝福してくださいように。

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一同  
アーメン。

祝福の祈りの後、聖水を用いることもできる。

136  
指輪の贈呈

新郎は新婦の薬指に指輪をはめる。同様に新婦は新郎の薬指に指輪をはめる。そのとき、次のようなことばを言うことができる。

新婦

この指輪は、わたしたちの愛と忠実のしるしです。

または

新新  
婦郎

○○○○さん、この指輪を、わたしの愛と忠実のしるしとして受けてください。

137 続いて一同は賛歌、あるいは賛美の歌を歌うことができる。

138 署名

ここで結婚証書に署名を行うことができる。しかし、結婚式の中心はことばによる同意の表明であるから、署名に時間をかけすぎたり、式全体の構成をこわすことがないように注意する。  
署名は祭壇の上では行わない。

139 共同祈願

続いて共同祈願を唱えることができる。  
共同祈願の前文、意向、後文は状況に応じて自由に作ることが望ましいが、付録三（148ページ以下）にあげるものの中から、ふさわしいものを選ぶこともできる。  
一同の答えの部分は、共同祈願に慣れていない列席者を考慮して、沈黙の祈りに代えることもできる。

140 主の祈り

共同祈願が終わると、司式者はたとえば次のようなことばで一同を「主の祈り」に招く。

司 主しゅの教おしえを守まもり、みことばに従したがい、つつしんで主しゅの祈いのりを唱となえましょう。

または

司 キリストをとおして示しめされた神かみの愛あいをたたえ、つつしんで主しゅの祈いのりを唱となえましょう。

一同 天てんにましますわれらの父ちちよ、

願ねがわくはみ名なのとうとまれんことを。

み国くにの来きたらんことを。

み旨むねの天てんに行おこなわるるごとく地ちにも行おこなわれんことを。

われらの日にち用の糧かてを今日こんにちわれらに与あたえたまえ。

われらが人ひとにゆるすごとくわれらの罪つみをゆるしたまえ。

われらを試こころみに引ひきたまわされ、

われらを悪あくより救すくいたまえ。

または

一同 天てんの父ちちよ、

み名なが尊とんとまれますように。

み国くにが来きますように。

み旨むねが天てんと同おなじく地ちでも行おこなわれますように。

わたしたちの日ひごとの糧かてをきようお与あたえください。

わたしたちが人ひとをゆるすように、

わたしたちの罪つみをおゆるしてください。

わたしたちを誘ゆう惑わくに陥おちいせず、

悪あくからお救すくいください。

141 結婚の祝福

続いて新郎新婦はその場でひざまずくか合掌して軽く頭を下げる。

司式者は手を合わせて、一同を祈りに招く。招きのことは、二人が信者の場合は次の(二)を用いる。他の形式は付録二(141ページ以下)を参照。



続いて司式者は新郎新婦のほうを向いて立ち、両手を新郎新婦の上に差し伸べて、次の祈りを唱える。新郎新婦の祝福は事情によってごく簡単にするか省くこともできる。ただし二人が信者の場合は、省くことはできない。その場合は次の(二)の祈りを唱える。

祈りの中で、たとえば新郎新婦が高齢の場合のように、状況からいってふさわしいと思われるなら、(一)の部分省くことができる。

一同はしばらく沈黙のうちに祈る。

(一)

司 ご列席の皆さん、お二人の上に神の  
祝福を願ひ、結婚のきずなによつて  
結ばれたこのお二人を神がいつくし  
み深く守り、助けてくださるよう祈  
りましょう。

(二)

司 ご列席の皆さん、結婚の秘跡の恵み  
を受けたお二人の上に祝福を求め、  
神がいつくしみ深く守り、助けてく  
ださるよう祈りましょう。

(一)

司  
宇宙万物の造り主である父よ、

あなたはご自分にかたどって人を造り、  
夫婦の愛を祝福してくださいました。

今日結婚の誓いをかわした二人の上に、  
満ちあふれる祝福を注いでください。

二人が愛に生き、健全な家庭をつくり(子どもに恵まれ)ますように。  
喜びにつけ悲しみにつけ信頼と感謝を忘れず、

あなたに支えられて仕事に励み、  
困難にあつては慰めを見いだすことができますように。

また多くの友に恵まれ、結婚がもたらす恵みによって成長し、  
実り豊かな生活を送ることが出来ますように。

わたしたちの主イエス・キリストによつて。

一同  
アーメン。

(二)

司  
宇宙万物の造り主である父よ、

あなたはご自分にかたどつて人を造り、  
夫婦の愛を祝福してくださいました。

今日結婚の誓いをかわした二人の上に、  
満ちあふれる祝福を注いでください。

二人が愛に生き(家庭は子どもに恵まれ、神の民が豊かになり)ますように。  
喜びにつけ悲しみにつけ賛美と祈りを忘れず、  
仕事に際してはあなたの助けを感謝し、  
困難の中では慰めを見いだすことができますように。

神かみの教おしえを守まもり、生せい活かつの中なかに信しん仰こうを表あらわすことができますように。

また多おほくの友ともに恵めぐまれ、結けっ婚こんがもたらす恵めぐみによつて成せい長ちようし、

すべての聖せい人じんとともに永えい遠えんのいのちの喜よろこびを分わかち合あうことができますように。

わたしたちの主しゅイエス・キリストによつて。

一同  
アーメン。

## 閉 祭

143

ここで一同は、二人が結婚によつて結ばれた喜びと感謝を表すことができる。司式者の招きのことばに続いて、たとえば「平和を求める祈り」や他のふさわしい祈りを唱えることができる。

司  
……祈いのりましよう。

一同

神よ、わたしを平和のために働く者としてください。

憎しみのあるところに愛を、

争いのあるところにゆるしを、

分裂のあるところに一致を、

疑いのあるところに信仰を、

誤っているところに真理を、

絶望のあるところに希望を、

闇に光を、悲しみのあるところに喜びをもたらす者としてください。

慰められるよりは慰めることを、

理解されるよりは理解することを、

愛されるよりは愛することを求めますように。

わたしたちは与えるから受け、

ゆるすからゆるされ、

すべてをささげて永遠のいのちをいただくのです。

## 結びの祝福

結びの祝福には以下の(二)から(四)のいずれかの祈りを用いる。結婚の祝福と共同祈願を省いた場合は、(一)または(二)を用いることが望ましい。(一)のことは状況によって省くことができる。(四)は新郎新婦が信者の場合に用いる。

## (一)

司 永遠えいえんの神かみである父ちちが、相互そうごの愛あいによって結むすばれた二人ふたりを守まもってください、その家庭かていがいつもキリストの平和へいわで満みたされますように。

一同 アーメン。

司 二人ふたりが(子どもこにも恵めぐまれ、)よい友ともを得えて、すべての人ひととまことの平和へいわを分わかち合あうことができませんように。

一同 アーメン。

司 社会しゃかいにあつては神かみの愛あいをあかしする者ものとなり、苦しむ人々ひとびとの友ともとなることができま  
すように。

一同 アーメン。

司 全能ぜんんのうの神かみ、父ちちと子こと聖霊せいれいの祝福しゅくふくが **✠** 皆みなさんの上うえにありますように。

一同  
アーメン。

(二)

司 全能の神である父が、ご自分の喜びを二人に与え、その家庭を祝福で満たしてください。

一同  
アーメン。

司 神の御ひとり子が、順境においても逆境においてもあたたかく二人を助けてください。

一同  
アーメン。

司 聖なる霊が、神の愛をいつも二人の心に注いでくださいますように。

一同  
アーメン。

司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が  皆さんの上にありますように。  
一同  
アーメン。

(三)

司 全能ぜんのうの神かみ、父ちちと子こと聖靈せいれいの祝福しゅくふくが  
✠ 皆みなさんの上うへにありますように。  
一同 アーメン。

(四)

司 かつてカナで行おこなわれた結婚けっこん式しきにおいてになつた主しゅイエスが、二人ふたりを祝福しゅくふくしてくださ  
いますように。

一同 アーメン。

司 教きょう会かいを深ふかく愛あいしてくださるキリストが、その愛あいを二人ふたりの心こころにたえず注そそいでくださ  
いますように。

一同 アーメン。

司 二人ふたりが神かみの国くにの完成かんせいを待まち望のぞみ、主しゅの復ふっ活かつの信しん仰こうを喜よろこびのうちにあかしすることが  
できますように。

一同 アーメン。



司 全能の神、父と子と聖霊の祝福が  皆さんの上にありますように。

一同 アーメン。

145 結びのことば

式の終わりに際し、司式者はたとえば次のようなことばを述べて式の終わりを告げる。

司 皆さん、これをもちまして○○○○さんと○○○○さんの結婚式を終わります。お  
ふたり 二人の新しい門出を祝し、喜びのうちにお送りしましょう。

新郎新婦は、ふさわしい聖歌あるいはオルガン演奏の中を退堂する。

